

ポスラ

～ 子どもたちの成長と温かなご支援 ～

- ◆ 【可能性と未来 ～大学進学を通して～】
- ◆ 子どもたちの生活
- ◆ 寄付・寄贈



NO.412

2022.9.30

可能性と未来

～大学進学を通して～

施設長 小笠原 寛

今年度の平和学園には、国立大学に進学している子がいます。この報告を皆様にできる事に、とても幸せを感じています！

少し話は変わりますが、平和学園を訪れた方から、「ここには、18歳まで、高校生までしかいられないのですよね？」と聞かれることがよくあります。

「必要な子は20歳、状況によっては22歳まで暮らすことができます。大学等に進学した子や就職した子でも、18歳を過ぎても大丈夫です。」と私は答えます。

「そうですか、安心しました！学園を出た後も大変と聞くことが多いので」と笑顔でうれしそうに言ってくださいます。

「私が働きはじめた15年前は、私立高校に行くことも難しかったです。しかし、今では本人の努力次第で、私立高校はもちろんのこと、大学進学の道も切り拓けるようになってきました。これは、『児童養護施設で生活する子どもたちの可能性をもっと伸ばしてあげたい！』という皆様の声が、制度や法律・仕組みを変え、子どもたちへの支援の幅が広がることで可能になってきました。ありがとうございます」と感謝の言葉をお伝えします。

子どもたちの「可能性と未来」に思いを寄せてくださる多くの方に、平和学園の子どもたちは支えられている日々です。

合わせて、大学進学を叶えたH君について紹介させていただきます。ある支援者の方に書いた本人の手紙（一部抜粋）を掲載させていただきます。この手紙でH君の状況と人柄を想像して頂けたらありがたいです。

『自分は高校1年生の頃、高校を辞めるかどうかの状況で、児童相談所の方に助けてもらって、岡崎平和学園にやってきました。やってきた時は、高校へちゃんと行けること、衣食住がそろい安心な生活ができることにホッとしていました。ただ、どうせ自分なんか、大学は無理だろうと心の中には、あきらめの気持ちがありました。しかし、高校2年の終わり頃、園長先生に「過去は変えられないが、未来は変えられる！」と激を飛ばしてもらい、もう一度、本気で頑張ってみようと思いました。その後は、学校の先生に何度も進路相談にのってもらい、児童相談所の方にあたたかく励ましてもらい、施設の先生たちには、勉強ができる環境を作ってもらったり、奨学金の申請を手伝ってもらったり、受験の送迎をしてもらったりしました。多くの方に支えられて、今の自分があると実感しています。これから自分は大学の工学部で物理を学び、研究や開発に励んでいきます。これらが社会貢献に繋がる事が、これまで支援して下さった方々への恩返しになると思い、頑張っていきます！』

コロナ禍で、人と人との繋がりが希薄となり、次々とおとずれる第何波に希望が見い出せなくなってしまいそうな日々の中に、子どもたちのキラキラした「可能性と未来」を皆様にお届けしたく、ポプラの書面を使って紹介させていただきました。

